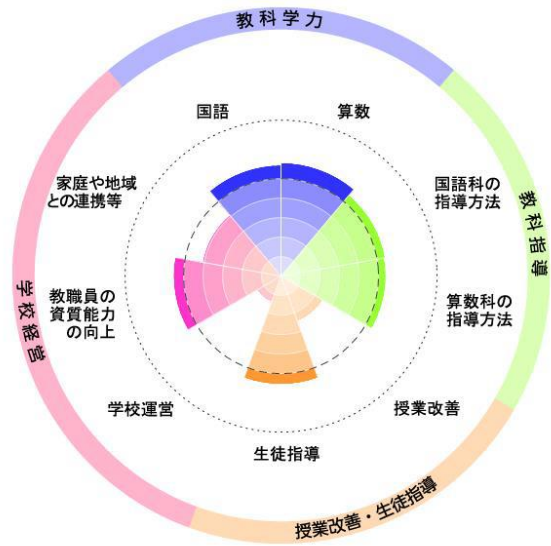


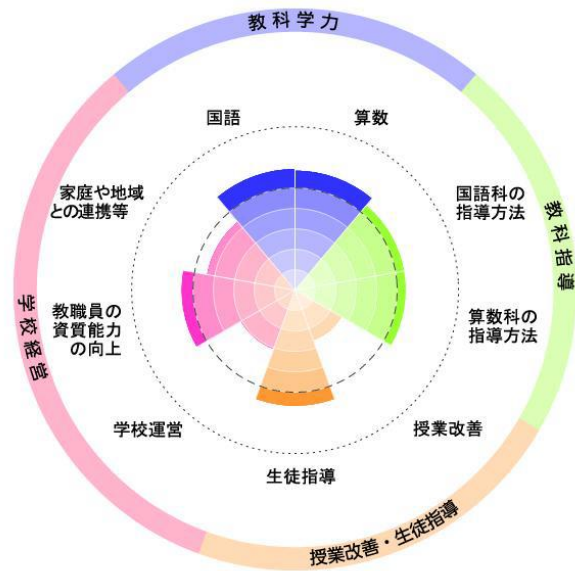
## 令和5年度 全国学力・学習状況調査結果分析

### 【学校運営】

学校質問紙（県内基準）

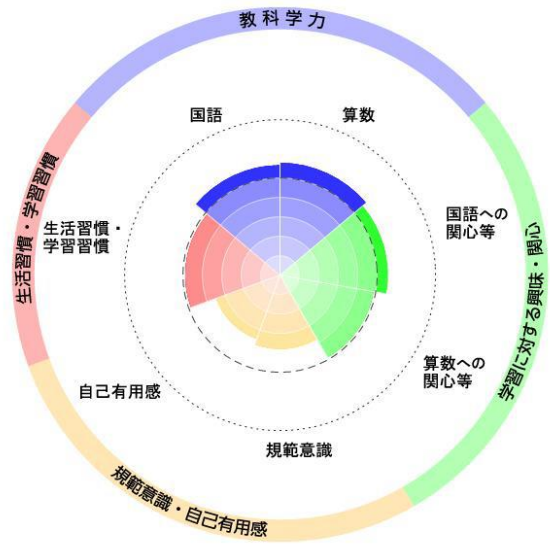


学校質問紙（全国基準）

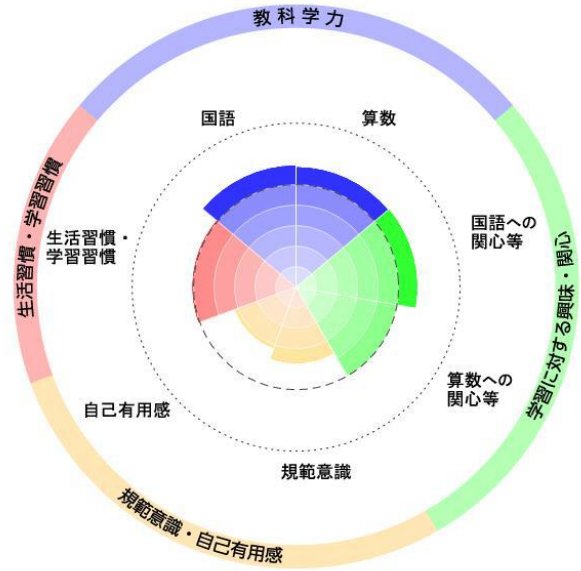


### 【児童生徒】

児童質問紙（県内基準）



児童質問紙（全国基準）



### 教科の概況

	国語・平均正答率 (%)	算数・平均正答率 (%)
矢上小学校（6年）	72	69
神奈川県（公立）	66	63
全国（公立）	67.2	62.5

## ○成果

国語… 平均正答率は全国平均を上回っている。資料から適切な表現を選択したり、漢字を正しく使ったりすることができている。普段の学習で、繰り返し漢字練習を進めていることや、資料を活用して内容を読み進めることを意識していることが、成果につながっていると考えられる。

算数… 平均正答率は全国平均を上回っている。計算や図形の基本となる問題の正答率が高いことから、学習したことが確実に定着している児童が多いことがわかる。日ごろから ICT 機器を活用して、図形の操作をしたり自らの考えをまとめたりしていることが、結果と成果につながっていると考えられる。

## ○課題

国語… 「書き手の考えや意図を読み取る」問題や、設問形式が普段見慣れない問題の解答で課題が見られた。これは文章を読み進めるだけでなく、筆者・作者の考えに沿って文章を読む経験が必要だと考える。自分の考えをまとめるだけでなく、他者と比較して文章を読む経験も意識していく必要がある。

算数… 全国平均は上回っているが、算数への関心・理解力に個人差があることがわかった。また、最後まで問題に取り組みず解くことをあきらめてしまったり、基本的な計算問題を解き誤ったりする傾向も見られた。既習事項を振り返る時間や計算問題を繰り返して、基礎・基本の定着を図る時間を確保し、苦手意識の軽減を図っていく。

## ○今後の学習指導に向けて

国語・算数とも基本的な知識・技能の定着を図りつつ、身につけた知識の体系化していく力の向上をめざしていく。そのためには次の2点を特に大切にしていく。

### ①知識を活用する力の伸張

身につけた知識を活用して、学習を進める場面を意識させていく。そのためには自分が知ったことを文章やデータにまとめるだけでなく、他者に伝える意識をもって活動することの意識を高めていく。そのために ICT 機器を活用して表現することや、相手を意識して伝えることを支援していく。

### ②他者の考えに共感する力の育成 ～協働的な学びのさらなる推進～

国語・算数だけでなく、生活意識調査のデータからも、自分の考え方に自信がもてないことがうかがえる。自己有用感を高めるためには、「自分の意見が認められること」と「相手の考えに共感できること」が、重要になってくる。学習では、協働的な学びをさらに推進しつつ、「つまづきに対して個別に対応して学習の定着を図る。」「ICT 機器を活用して、自分の意見を表現するよさや、友達の意見のよさを実感する。」支援を行っていく。また生活では、学校全体にかかわる活動（委員会、たてわり活動）を通して、多くの人と協力しながら自分が頑張っていることを認めたり、協力してもらったことに感謝したりする経験を大切にしていく。